

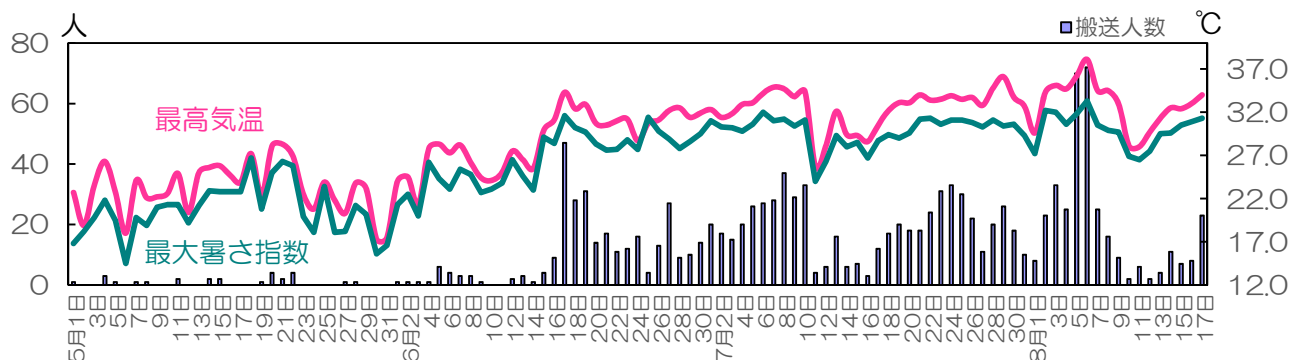
熱中症情報



衛生研究所の
Instagram
できました。
フォローお願いします！

<搬送数>

令和7年5月1日～8月17日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,267人（5月26人・6月293人・7月604人・8月344人）でした。8月6日は、最高気温が38.1℃で、搬送数が72人/日と、期間内で最多を記録しました。8月10日～12日は最高気温が30℃以下で、搬送数も減少しましたが、8月13日以降は、真夏日となり、搬送数は増加傾向です。



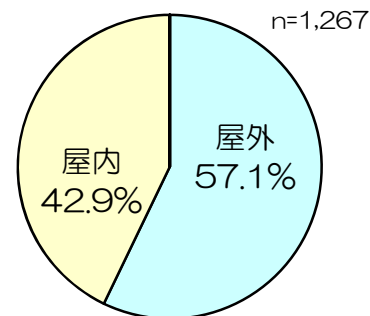
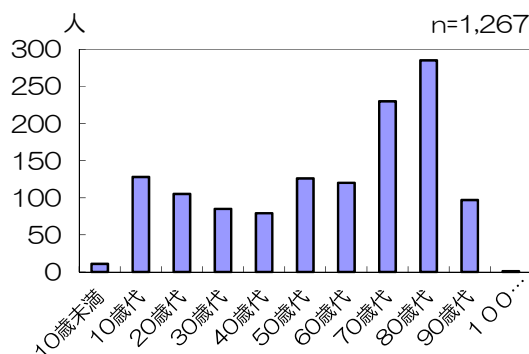
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

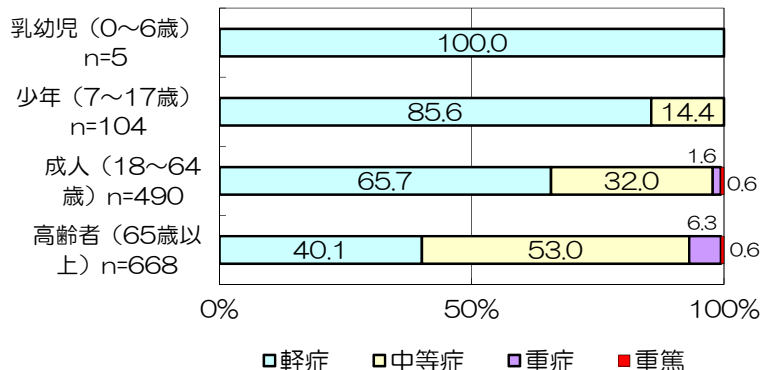
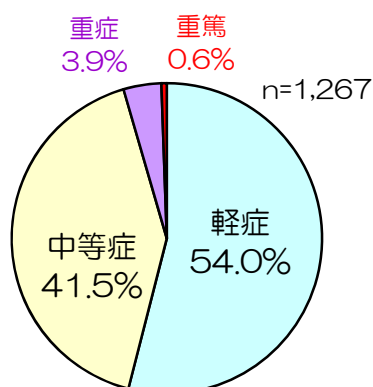
身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

暑さ指数とは？ 人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別> 80歳代が285人（22.5%）で最も多く、**<発生場所>** 屋外57.1%、屋内42.9%で、次が70歳代で230人（18.2%）でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度*> 軽症54.0%、中等症41.5%、重症3.9%、重篤0.6%でした。高齢者で中等症以上の割合が59.9%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。